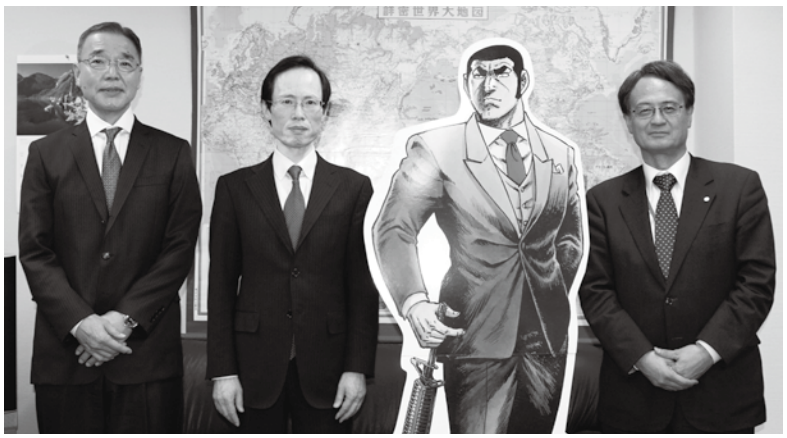
安全対策は「臆病さと情報」が重要
〝ウサギの行動原理〟で万全の備えを

日本人出国者数は今年に入ってから順調な増加を続けています。一方、欧州をはじめ世界各地でテロ事件が頻発し、朝鮮半島でも緊張が高まるなど、国際情勢は厳しさを増しています。7月1日の「旅の安全の日」を前に、リスク管理のエキスパートである皆さんに海外旅行の安全について語り合っていただきました。



安全マニュアルの指南役＝ゴルゴ13を囲む小島副会長、能化領事局長、越智事務局長の3氏（左から）

《出席者》

能化　正樹
外務省領事局長

小島　俊郎
一般社団法人 海外邦人安全協会副会長
（株式会社共同通信デジタル執行役員
リスク対策総合研究所長）

越智　良典
JATA 事務局長

想像をはるかに超える海外旅行の意義

――海外旅行をめぐる厳しい環境が続いていますが、こういう時期でも日本人が海外へ出かけることの意味合いをどのようにお考えですか。

能化　全くの私見ですが、通信技術の発達により居ながらにして世界各地の情報が得られる時代に変わっても、生身の人間、特に、人の心はあまり変わっていません。飛行士でもあったフランスの作家・サンテグジュペリは、『星の王子様』に話しかけるキツネに「君がバラのために失った時間が君のバラをこんなにも大切なものにしたんだ」と言わせています。サンテグジュペリは「時間を失う」という言い方をしましたが、町にしても文化にしても、そこで時間を過ごすことによってはじめて、それぞれの人にとっての大切さが生まれてくるのではないでしょうか。時間を使うという意味での海外旅行の意義は、今も昔も変わらないと思います。

小島　海外旅行は国際人として社会に貢献できる人材に育つ上で貴重な栄養であり、特に、若い人にとっては、極めて重要な経験になると思います。能化局長がおっしゃったようにインターネットを通じて、文字や画像だけでなく、動画でも豊富な情報が得られる現代社会ですが、自分の脚で歩いて生の情報や正確な情報を得るために、海外へ出かけることはとても大切です。自分が信じていた情報との乖離や正誤を確かめる行為としても、海外旅行は自身の成長に繋がるものではないでしょうか。人間社会のあらゆる分野で「情報」に左右される時代ですから、海外旅行の意義は想像をはるかに超える大きいものだと考えています。

越智　渡航自由化から50年以上が経過して、今は、1カ所に長く滞在して生活文化を楽しむ旅をつくるなど、旅行業界も努力と工夫を積み重ねています。

日本大使館が「安全マニュアル」を作成

――朝鮮半島で高まる緊張は、いわゆる「有事」への対応すら現実味を帯びるものにしつつありますが、こうした国際情勢をどのように捉えるべきでしょうか。

能化　世界には、テロや事故、災害、感染症など様々なリスクが存在しており、最近の朝鮮半島における情勢は、安全保障環境をめぐって大きな関心を集める形となっています。特に、韓国は日本から近く、交流の拡大により文化的にも親しみが増しているため、国内にいるような気持で旅行をされていることもあるかもしれません。しかし、当然ながら、韓国も外国であり、日本の主権が及ばないことは、常に念頭に置いていただく必要があります。緊急事態はいつ発生するかわかりません。韓国の日本大使館が作成し、ホームページで公開している安全マニュアルは、その半分が緊急事態への対処に割かれ、心構えや平素の準備、緊急時の行動について基本的なポイントがまとめてあります。韓国が外国であり、特別な環境にあることを忘れず、少なくとも旅行会社などではこのマニュアルをきちんと読んでおいていただきたいと思います。

――4月11日には、スポット情報の形で、改めて、外務省が注意喚起をされていますが、そのポイントはどういったことでしょうか。

能化　2つあります。1つ目は、邦人の安全に直ちに影響がある状況ではないも

旅の安全の日（7月1日）特別座談会

の、北朝鮮が核実験や弾道ミサイルの発射を繰り返しているため、朝鮮半島情勢については、最新の情報に注意しなければならないということです。2つ目は、情報伝達と安否確認の観点から、連絡先を外務省に登録していただきたいということです。滞在が3カ月未満の方は「たびレジ」への登録、3カ月以上の方は「在留届」の提出を徹底していただかなければなりません。

小島　イスラム国（IS）やローンウルフ、ホームグロウン・テロリストなど、いつでもどこでもテロの可能性がある時代となり、世界各国にテロの脅威が存在していることを認識する必要がありますが、朝鮮半島情勢については、旅行会社がツアーの催行中にも、ミサイル発射や核実験という事態を淡々と想定して、有事対応に備えていただきたい。「北朝鮮？いつものことだ」と考えるのではなく、不作為が「仕事の放棄」に等しいものであることに留意してほしいと思います。

外務省の能化正樹領事局長

越智　JATAではゴールデンウィークの直前に、大手・中堅の旅行会社のリスク担当者を呼んで、外務省にもご協力をいただいて韓国についての情報を共有し、大使館が出したマニュアルも全部見て、シェルターの場所なども確認しました。プロの備えとしては、そこまでやっておかなければならないと考えています。

情報を着実に受け取り行動に反映する

――外務省が発出する安全情報などの情報発信と「旅の安全」との関わりをどのように考えればいいでしょうか。

海外邦人安全協会の小島俊郎副会長

能化　最近のテロは、欧米やアジアなど日本人が多い地に広がると同時に、いわゆるソフトターゲットが狙われるケースも増えています。対策がこれまで以上に難しくなっていますが、被害の可能性をできるだけ減らすように外務省として積極的に情報発信していきます。旅行会社や旅行者の皆さんには、記念日や政治イベントなどの注意を要する日程、さらに被害を避ける、あるいは最小にとどめるための基本知識を身につけることの重要性を認識していただきたいと思います。外務省では、分かりやすい情報発信の努力を続けていますが、最近は、特に中堅・中小企業を含む幅広い層にメッセージが届くよう「ゴルゴ13」を活用した安全対策マニュアルを作成しています。

小島　「ゴルゴ13」マニュアルの制作にご協力しましたが、基本的な対策が網羅、整理されてあり必読です。同時に旅行会社は、日頃から外務省やメディアの情報で世界の様子を眺めることを習慣にしていただきたい。日々情報をモニターすることで有事の情報を正しく読めるようになり、的確に身の安全を守ることに繋がります。

能化　ゴルゴ13は安全対策について訊ねられ、「10％の才能と20％の努力、そして30％の臆病さ、残る40％が情報だろうな」と答えています。強調したいのは、臆病さと情報です。外国には日本の主権が及びませんから、テロの発生自体を日本が防ぐことは難しいので、取りうる対策としてはテロなどの危険をできるだけ察知し、危険回避行動を取るということ、つまり、〝ウサギの行動原理〟です。その際に鍵となるのが情報であり、外務省の発信する情報を着実に受け取って行動に反映していただき、旅行者自身も情報に敏感になっていただかなければなりません。

安全対策でゴルゴ13が指南役に

外務省では、海外旅行者や海外に赴任する企業関係者などを対象に、ゴルゴ13が指南役を務める安全対策マニュアルをホームページで公開しています。『ゴルゴ13』の劇画形式で今年3月から連載が始まり、6月中旬まで全13回にわたって掲載される予定で、「最低限必要な安全対策」の周知を図る方針です。

©さいとう・たかを

「危機管理に共同通信リスク情報を！」

日々の世界の様子をモニターできる共同通信の『海外リスク情報』はリアルタイムでメールとウェブサイトで提供されます。旅行会社約50社が危機管理に利用中です。